

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間：2008年9月中旬から10月下旬までの旬別
 対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業：さんま棒受網漁業
 対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

- (1) 来遊量：9月中旬は高位水準へ増加し、9月下旬も高位水準を維持する。10月上旬から減少を始め、10月中旬には中位水準、10月下旬には低位水準となる。
- (2) 漁場：9月中旬～10月上旬は、落石～釧路沖の漁場が持続する他、襟裳岬沖でも散発的に漁場ができる。落石沖の漁場は10月中旬に消滅し、10月下旬は釧路～襟裳岬沖が漁場となる。

2) 三陸海域

- (1) 来遊量：9月中旬には低位水準ながら来遊がある。9月下旬に中位水準、10月上旬に高位水準へと増加する。10月下旬以降は、ゆるやかに減少する。
- (2) 漁場：9月中旬には八戸～久慈沖において断続的ながら漁場が形成される。9月下旬には宮古沖まで漁場が広がり、10月上旬は三陸北部が主漁場となる。10月中旬には、漁場が三陸南部まで広がる。

3) 常磐海域

- (1) 来遊量：10月上旬は来遊量は少なく、漁場ができるのは10月中旬以降となる。10月下旬には、中位水準にまで増加する。
- (2) 漁場：10月中旬は、常磐北部において断続的ながら漁場が形成される。来遊が本格化する10月下旬は、常磐北部が主漁場となる。

2. 予測の概要

海 域		9月中旬	9月下旬	10月上旬	10月中旬	10月下旬
道東海域	来遊量					
	動向	高位増加	高位水準	高位減少	中位低下	低位減少
	漁 場	落石～釧路沖・襟裳岬沖	落石～釧路沖・襟裳岬沖	落石～釧路沖・襟裳岬沖	落石～釧路沖・襟裳岬沖	釧路～襟裳岬沖
三陸海域	来遊量					
	動向	低位増加	中位増加	高位増加	高位水準	高位減少
	漁 場	八戸～久慈沖	八戸～宮古沖	北部	北部～南部	北部～南部
常磐海域	来遊量					
	動向			断続的	低位増加	中位増加
	漁 場				北部	北部

3. 漁況の経過概要

(8月下旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前年をやや上回り、中位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期前半には来遊量は多かったが、その後やや減少。26日以降、徐々に増加した。

(2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石南東～南の 15～30 海里付近(表面水温 15～18℃)。ほぼ連日小型船主体に操業。1回 0.5～4トン漁獲。群は濃群と淡群が混じる中～小群。

襟裳岬東南東 25 海里付近(表面水温 17～18℃)では、31 日夜に大型船が数隻操業。5～35トン程度漁獲。

(3) 魚体

30～31cm モードの大型魚が主体。中型以下の魚の混じり具合は、0.5～3 割程度。体重 150～160g 台が主体。